



●ケース

裏面からのケース加工図面です。あらかじめ加工しておきます。

- (1)ポリバリコン用=M8 と M3x2
- (2)モノラル・ジャック用=M8
- (3)基板固定用=M3
- (4)トグルスイッチ用=M5
- (5)ボリューム用=M7,M3

図1 ケースと基板

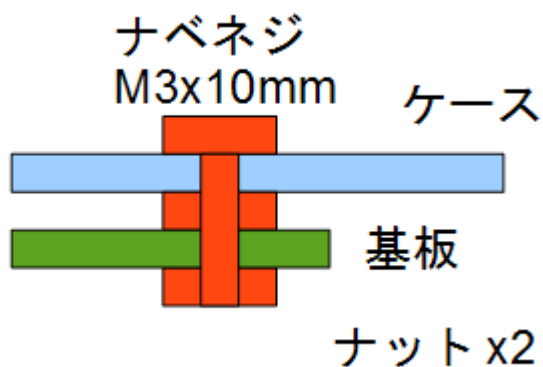
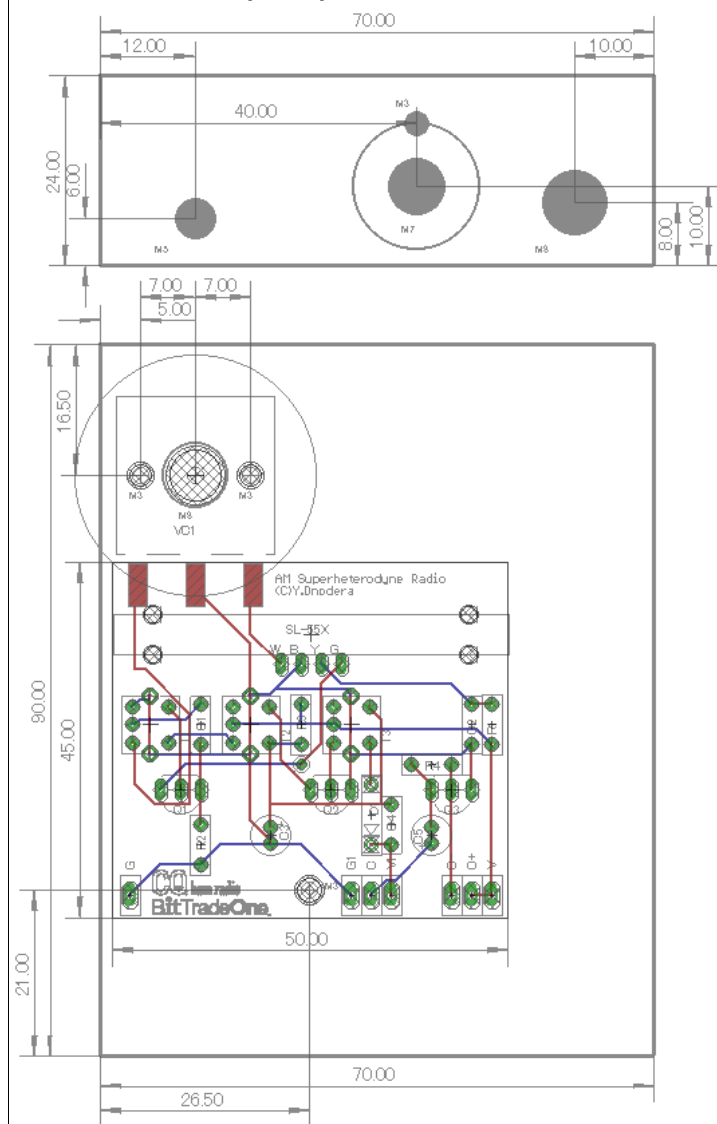


図2 ケース加工(裏面)



●組み立て手順

**ステップ 1、**

R1,R2,R3,R4,C1,C2,C3,C4,C5,D1,Q1,Q2,Q3  
をハンダ付けします。

**ステップ 2、**左から赤コイル、黄コイル、黒コイル  
をハンダ付けします。

**ステップ 3、**VCの端子を少し切り、ハンダ付け  
します。

**ステップ 4、**バーアンテナをハンダ付けし結束バ  
ンドで基板に固定します。

※SL-55Xの後継はAR-55Xです。

**ステップ 5、**モノラル・ジャックをケースに固定  
し、基板と配線します。

**ステップ 6、**トグルスイッチをケースに固定し、  
電池ケースと基板に配線します。

**ステップ 7、**VR1 をケースに固定し、基板と配線  
します。

**ステップ 8、**VCと基板ををケースに固定します。

**ステップ 9、**周波数印をつけ、ダイヤルをボン  
ドで固定します。

表 3 バーアンテナの配線

	W	B	Y	G	
SL-55X	白	黒	黄	緑	廃版
AR-55X	白	黒	赤	緑	
AR-55X	白	黒	緑	赤	発振する場合

写真 2 ケース内部

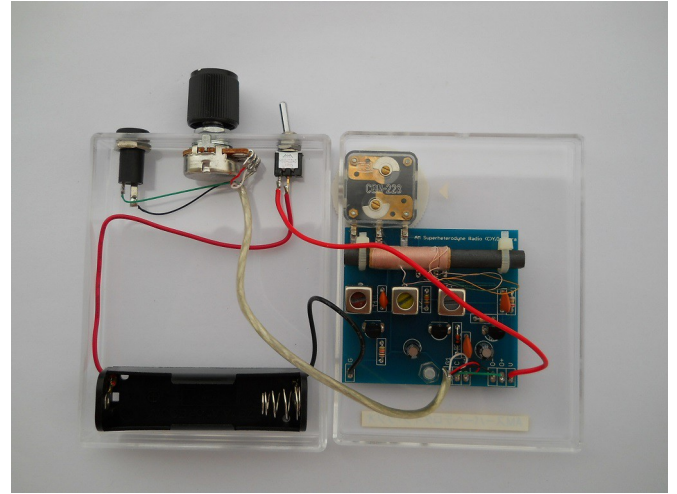
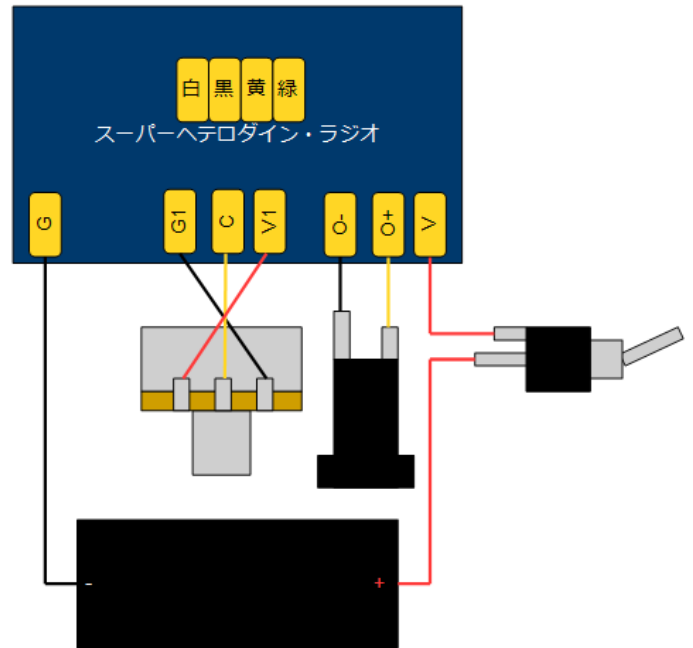


図 3 実体配線図



●調整

トラッキング調整は難しいです。大きく狂ってしまると、測定機器がないと調整できません。

IFT コイル(黄コイル、黒コイル)は概ね 455KHz 付近に調整されていることが多いため、大きく変更しないほうが良いでしょう。

簡易的な調整方法です。

(1)局部発振周波数 F2 の範囲が 990KHz から 2060KHz になるように赤コイルと 2 連ポリバリコンのトリマー(OSC 側)を調整します。

(2)同調周波数 F1 の範囲が 535KHz から 1605KHz になるように 2 連ポリバリコンのトリマー(アンテナ側)を調整します。

(3)周波数全域にわたって中間周波数が IF が 455KHz となるように黄コイルを調整します。

(4) 1 から 3 の工程を繰り返して調整します。

(5)黒コイルは音量が最大になるように調節します。